

たった一人で始めた裁判が切りひらいた地平



在りし日の金景錫さん（2005 年）

今年はダーバン宣言から 20 年です。ダーバン宣言は、植民地主義を「どこであれ、いつであれ、非難され、その再発は防止されねばならない」（パラ 14）と宣言しました。世界は、植民地主義を清算する時代に入ったのです。

ただ、日本はダーバン宣言より 10 年前の 1991 年、韓国の被害者から日本の侵略戦争と植民地支配を告発され、その清算を求められていました。一人は金学順（キムハクスン）さん、そしてもう一人が金景錫（キムギョンソク）さん。同年 8 月 14 日、金学順さんは「自分は日本軍『慰安婦』だった」と告白され、次いで 9 月 30 日、金景

錫さんが代理人も付けず、日本鋼管を被告として自分で書いた訴状を東京地裁に提出しました。日本における強制連行訴訟はここから始まったのです。

今年は、この金景錫訴訟から 30 周年です。金景錫さんが一人で始めた強制連行訴訟は、日韓の市民、労働者、研究者等の連帯をつくりだし、運動の輪を広げました。そして、その闘いはついに 2018 年 10 月 30 日、11 月 29 日の韓国大法院判決をうみ出したのです。

強制連行訴訟 30 年を迎える中で、もう一度、この裁判を始めた金景錫さんの闘い、その足跡などを振り返り、その闘いの意義を再確認する必要があります。それは、2018 年 10 月 30 日に原告の請求を認める大法院判決が出されながら、なお解決にいたっていない強制連行訴訟の課題と展望を整理する上でも重要です。このような趣旨で 12 月 18 日に標記の集会を企画しました。ご参加をお願いいたします。

日時 12月18日（土）

午後 2 時～4 時半

開催形態 オンライン開催

参加費 無料

※カンパ歓迎 ゆうちょ銀行振替口座

加入者名： 過去清算共同行動

記号番号： 00210-5-142184

参加申込みは下記 URL へ

<https://forms.gle/SMN1G6i88XXwKhG5A>

QRコード



問合せ e-mail: 181030jk@gmail.com まで
集会前日に URL 等お知らせします

集会プログラム

講演：金景錫さんの日本鋼管

訴訟とその今日的意義

講師：梓澤和幸さん（日本鋼管訴訟主任弁護士）

遺族からのメッセージ

洪英淑さん（お連れ合い）

金景錫さん

— そのたたかい、生涯をふりかえる

- ・ 持橋多聞さん（全造船日本鋼管分会）
- ・ 山本直好さん（日本製鉄元徴用工裁判を支援する会）
- ・ 李熙子さん（太平洋戦争被害者補償推進協議会）

まとめ— 強制動員訴訟の現状と今後の課題

主催 強制動員問題解決と過去清算のための共同行動／全造船関東地協労働組合

連絡先 携帯：090-2466-518（矢野） メール：ladybird12●i.softbank.jp